

図 8 オリオン の ^{13}CO スペクトルデータ

と、各観測点の当日の α , δ , 局部発振器の位相ロック周波数等算出用のパラメーター等が算出され、ディスク・ファイルに書き込まれる。観測を開始するとアンテナ、局部発振器の位相ロック、分光計の作動等がすべてこのディスク・ファイルの情報に従って行なわれるようになっている。

データ解析も一つ一つ処理しては時間もかかり、また入力誤り等で均一な処理が行なわれない危険性もある。そこでいくつかのデータについて試行錯誤を行ない、解析の方法を定めた後、その解析の為のパラメーターを与えると、すべての観測データについての同じ解析が行なわれ、結果が次々とグラフィック・ディスプレイに表示されるようになっている。従って観測者は、表示された結果を見ていて具合の悪いものがあれば、それを控えておいて後日の観測に備える。また、データを α , δ あるいは l, b の順に並べてスペクトルを表示したり、輝度、強度、ピーク速度、速度別強度等の分布図を直ち

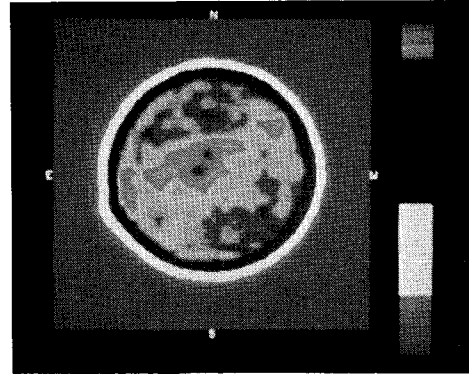


図 9 4月28日の太陽面マップ

に作れるようになっている。図 8 はオリオンの ^{13}CO スペクトルデータを示す。図 9 には太陽面マップの例を示す。

観測は多岐に亘っており、この項については、又別の機会に譲りたい。

謝 辞

この望遠鏡の主鏡、架台の製作を担当された法月惣次郎氏には、改めて謝意を表す。

また、受信器、光学系、分光系、データ処理系等の製作及び調整には、名古屋大学大学院の鷹野敏明（現ケルン大）、川辺良平、藤本泰弘、諏訪いずみ、杉谷光司、高羽 浩、岩田隆浩、大橋洋二、水野 亮の各氏の貢献が大である。

光学系ミラー等の製作に関しては、名古屋大学理学部金属工作室、受信器室等の製作に関しては、同物理金属工作室の方々によるものであり、ここで謝意を表す。

本研究は、文部省科学研究費（課題番号 56420004, 57420003, 58420004, 58840004）の援助のもとに行なわれた。

雑 報

1985 年情報シンポジウム

日本学術会議情報学研連委の主催する情報学シンポジウムが 1985 年 1 月 8, 9 日、学術会議で開かれる。参加希望者は氏名、連絡先、職名、資料必要の有無をハガキで下記に申し込んで下さい。内容はデータ収集、表現、

標準化、管理システム、検索、構造、利用技術、高次処理、流通、分野別応用など、講演申込みはオフセット原稿用紙 B4（記入枠 A4）2 枚に題目、著者、所属、要旨を記載し、12 月 10 日までに必着のこと。

宛先：〒106 東京都港区六本木 7-22-34

日本学術会議事務局学術課 山田哲範
電話 03-403-6291（代）